

平成30年度 第1回三郷市地域福祉計画推進懇話会 会議録

会議名	第1回三郷市地域福祉計画推進懇話会		
開催日時	平成30年8月29日(水) 午前 9時30分～		
開催場所	健康福祉会館5階 研修室		
議長	小橋 恒夫	記録者	宮本
出席者氏名 懇話会委員	(敬称略) 小橋 恒夫、平井 雅三、馬場 榮次、増田 敦子、岡永 伊助、大崎 ひろ子、 茂木 聡美、新井 康之、高山 美年子、石渡 弘子、加藤 明子、柴田 千晶、 寺山 友也、横内 浩一		
事務局	小暮福祉部長、森福祉部副部長 ふくし総合支援課：篠田課長補佐、宮本主事、橋本主事		
会議内容	【1.開会】 【2.三郷市地域福祉計画推進懇話会委員委嘱書交付式】 ・福祉部長挨拶 ・資料確認 ・委員自己紹介 【3.会長及び副会長の選出】 委員からの推薦により下記の通り決定。 会長：小橋 恒夫、副会長：大崎 ひろ子 【4.あいさつ】 ・会長挨拶 ・副会長挨拶 【5.事項】 (1)平成29年度地域福祉計画関連事業の報告について(別紙参照) 前年度関連事業の実施内容、達成状況について報告。 [質疑応答] 委員：基本方針(1)施策方向性 5/5 ページ「ふれあい、見守り拠点の整備」 ほっとサロンいきいき等の住民交流の支援について、既に達成値を超えている為か、新規に立ち上げた際、助成金を受ける事が出来ないとの意見を聞く。 現在、自分の地域もその状況である。今後、既存サロンの開催回数の一部を新規サロンに充てる等、配慮をして頂きたい。 →事務局：これから事業の広がりを持つ上で大切な意見。 各担当課と協議し、本日の意見を参考に検討していきたい。		

(2) 第 3 次三郷市地域福祉計画の概要について

第 3 次地域福祉計画、及び概要版を基に概要説明。

[質疑応答]

委員：福祉計画 63 ページ 基本方針 4 地域で安心して暮らせるまちづくりについて、災害時対策に加え、防犯対策についても連動して支援できるよう交通防犯課と協力し今後施行に加えてほしい。

→事務局：安心という面において大変に有意義な意見。今後検討したい。

委員：市民アンケートの結果を見ると、求めるサービスの受け方が分からないとの回答が多いように思う。現在も行政は広報、啓発を行っていると思うが、更なる周知を図るためどのような方法を考えているか伺いたい。

→事務局：情報提供について、広報誌に加えホームページや SNS、市のメール配信サービス等を活用して充実させていくことを考えている。(計画 59 ページ参照)

→委員：ネットワークの活用について、サービスを利用する機会の多い高齢者には、スマートフォン等の機器を活用することが難しい世帯も多くある。幅広い世帯に情報の提供を行えるよう、今後も周知方法について考えたい。

委員：福祉計画 63 ページ 基本方針 4 地域で安心して暮らせるまちづくりについて、「地域における支援」の内容は現在町会の取組が主立っているが、町会により活動に温度差があり、要援護者の支援についても対応がまちまちである。障がい者が孤立しないよう、相談支援センターや包括支援センターを中心に支援する等検討してほしい。

→事務局：支援者名簿の情報提供について、現在三郷市では挙げて頂いた施設のと取交わりは行っていない。今後互いが持つ要援護者の情報をどのように共有していくことが出来るか、検討していきたい。

→委員：以前熊本地震のボランティアに入った際、要援護者について現地の声を聞く機会があったので参考までにお伝えすると、避難所では障がい者の家族が周囲に気を遣い疲弊していくということであった。市では別室を用意し対処していた。

[その他意見]

- ・町会、自治会により、互助に対する温度差が激しい。
- ・かつては要支援世帯が周囲の助けを受けたがらない、隠してしまう傾向があったが、徐々に助けを求めてくれることも多くなった。
- ・避難場所で地区の避難状況がスムーズに確認できるよう、町会・地域別に避難所内で待機する区域まで決めてほしい。
- ・避難支援事業について、協定を結んでいない町会に今後どう理解を求めるか考えていかなければならない。
- ・有事の際小中学生にも協力して貰えるよう、ボランティア等の事業に積極的に参加した児童の情報が欲しい。

- ・三郷市は川が決壊した場合、1階は浸水するという記事を読んだ。
平屋の場合自宅に居られない。
- ・地域毎に災害時に避難する学校が決まっているが、1施設に対する避難者の人数について、現実的な数字ではないのではないかと不安を感じる。
- ・個人の協力意識に温度差があり、避難行動を含む町会の活動に非協力的な市民もいる。有事には分け隔てなく対応するべきだが、日頃の交流がない分対応が遅れざるをえない。いかに理解し協力してもらうか、町会全体へ対応が取れるかが課題である。
- ・社会福祉協議会も、今年度活動計画を策定した。
- ・関係団体や市民の声を聞くに「最終的には人と人とのつながりが要である」という印象を受ける。
- ・災害時等、包括支援センターだけでは安否確認が難しく、関係課との連携、共有が重要だと痛感した。
- ・介護職に就く職員の間でも温度差がある。職員含め、普段は介護に関わりのない人間の意識を変えていく必要がある。
- ・町会の大変さを改めて実感する。
- ・中学生に参加・協力して貰う等、日頃から地域全体の関心を高めていく必要がある。
- ・町会の温度差について、愛育会でも町会と係る事が出来るかどうかまちまちである。
今後理解を求め、協力していきたい。
- ・避難場所の備蓄など、何が準備されているか詳しく情報を得たい。
- ・第三次地域福祉計画について、非常に読み易く仕上がったと思う。
- ・老人クラブも年々地域毎の加入数に開きが出てきている。
- ・女性部を発足し、コーラス部を作るなどして啓発活動を行っている。
- ・地域との関わりを深くする必要がある。
- ・会員と不通になった時には出来れば現況の情報が欲しい。
- ・三郷市内小中学校にて一斉学校公開を行っている。連携、協力をとる上でもぜひ参加して頂きたい。
- ・第三次福祉計画について、よくまとまっていると思った。
- ・目標値を示し、達成度を確認する事も宜しいと思う。
- ・理想の全てを一度に追求することは出来ないので、限られた資源をどの事業に集中させどう効果的に使うかが重要になってくる。

(3) その他

新任委員のマイナンバー・債権者登録、報償費について説明。

【6. 閉会】

- ・閉会挨拶：大崎副会長
- ・第1回三郷市地域福祉計画推進懇話会閉会